

平成29年度 第1期

清川泰次が写したパリ

会期:2017年4月1日(土)ー7月23日(日)

入場者数:1,367人

担当者:樋口茉呂奈

ものの形を写すことに捉われない独自の芸術を追求し、絵画、彫刻のみならず生活用品のデザインまで幅広い分野を手がけた清川泰次(1919-2000)。画家として活動する一方で、清川は写真にも強い関心を持ち続けた。

戦後間もない1951年に単身アメリカへ渡った清川は、3年間シカゴなどで制作活動を行った後、帰国の途中にパリを訪れた。この旅の間、清川は「ステレオ・リアリスト」という立体写真を写すカメラを持ち歩き、当時としてはまだ珍しいカラーフィルムで、現地の街並みを写真に収めた。パリ市内を歩きながら撮影した写真には、エッフェル塔やノートルダム大聖堂といった観光名所だけでなく、大通りから外れた細い路地、カフェで過ごす人々など、パリの日常的な風景が写されている。また、画家・藤田嗣治(1886-1968)と親交を深め、藤田が当時モンパルナスに構えていたアトリエで撮影した写真も残している。藤田本人や、藤田の前でポーズをとるモデルの姿を捉えたそれらの写真は、今日においても貴重な資料と言えるものである。

本展では、清川がパリで撮影した写真約20点を、同年代の油彩作品とともに展示し、清川が捉えた1950年代のパリの風景をご覧いただく機会とした。

出品目録

写真

撮影者:清川泰次 撮影地:フランス、パリ

撮影年:1954年 出品数:計24点

*写真は、オリジナルフィルムをデジタル化し、プリントした。二枚一組のステレオ写真のうち、一枚を選定し展示した(藤田嗣治のアトリエを写した写真のうち2点は二枚一組で展示)。

油彩作品

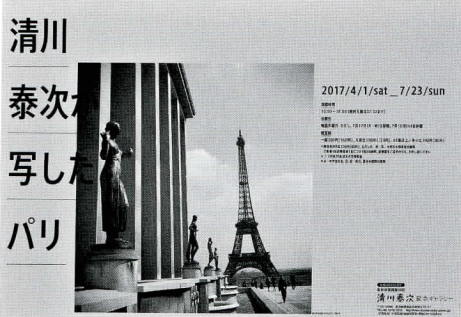
No.	作品名	制作年	材質、技法
1	ビリジャンでおおわれた作品	1955頃	カンヴァス、油彩
2	雲	1953-54	カンヴァス、油彩
3	黒の中にみどりの光がある風景	1954-55	カンヴァス、油彩

資料

『アサヒカメラ』1955年2月号、朝日新聞社

石井好子・清川泰次共著『パリの裏街』美術出版社、1958年

『パリの裏街』付録(清川泰次による立体写真、石井好子のシャンソンが収録されたEP盤)



B3ポスター



A4チラシ

展示風景



関連企画

5月27日(土) 11:00-
世田谷美術館分館 ギャラリートーク
講師:樋口茉呂奈(当館学芸員)
参加者数:15人

平成29年度 第2期

清川泰次 季節の情景

会期:2017年8月5日(土)ー12月3日(日)

入場者数:1,167人

担当者:樋口菜呂奈

一年を通じて少しずつ移ろいゆく季節。独自の抽象的な表現で約60年にわたり制作に励んだ清川泰次は、1950年代後半から60年代にかけて、季節のさまざまな情景を作品に描いた。

清川は慶應義塾大学在学中に油彩画を始め、初期には具象的な作品を描いていたが、「本当の絵画とはなにか?」を探求したいと1951年から3年間アメリカへ渡り、本格的に抽象表現へと移行した。この頃より清川は線と色面のみで画面を構成するようになり、アメリカから帰国直後には、《早い夏》や《早春-56》をはじめ、複雑に交差する線や点、色彩豊かな色面を用いて季節を表現した作品を多く残している。

本展では、清川の作品を「季節」というこれまでにないテーマで紹介し、油彩作品16点を展示した。アメリカで抽象表現主義などの新鮮な芸術に触れた清川が、新たなスタイルを模索し始めた頃に描いた多様な季節の表現をまとめて展覧する機会となった。

出品目録

〈大展示室〉

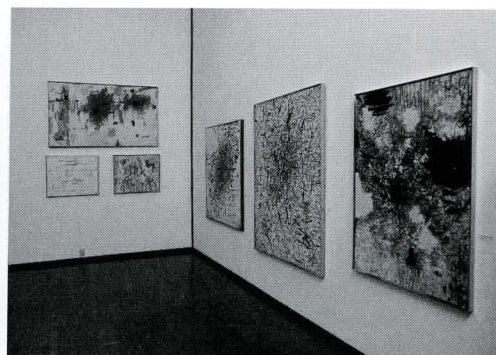
No.	作品名	制作年	材質、技法
1	早春-56	1956	カンヴァス、油彩
2	冬山	1956-57	カンヴァス、油彩
3	Lavender Poem-59	1958	カンヴァス、油彩
4	季節の外-59	1959	カンヴァス、油彩
5	早い夏	1959	カンヴァス、油彩
6	Fall(秋)	1959	カンヴァス、油彩
7	春	1959	カンヴァス、油彩
8	走る太陽	1959	カンヴァス、油彩
9	灰色の庭	1959	カンヴァス、油彩
10	池の緋鯉-59	1959	カンヴァス、油彩
11	秋	1962	カンヴァス、油彩
12	ピンクの虹-62	1962	カンヴァス、油彩

〈小展示室〉

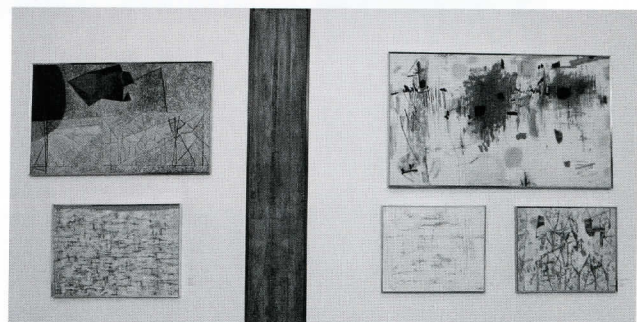
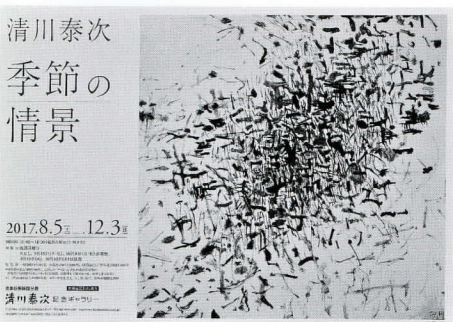
No.	作品名	制作年	材質、技法
13	Painting No.677980	1980	カンヴァス、アクリル
14	Painting No.2894	1994	カンヴァス、油彩、アクリル
15	Painting No.2796	1996	カンヴァス、アクリル
16	Painting No.897	1997	カンヴァス、アクリル



展示風景



A4チラシ



関連企画

10月21日(土) 11:00-
 世田谷美術館分館 ギャラリートーク
 講師:樋口菜呂奈(当館学芸員)
 参加者数:19人

清川泰次 平面と立体

清川泰次は大学を卒業後、二科展や読売アンデパンダン展などで作品を発表していたが、次第に具象表現に疑問を抱くようになり、1951年から54年までの渡米を機に、本格的に抽象表現の道へ進むことを決意した。その後、清川は少しずつスタイルを変えながら、色、線、面の構成により生み出される美を探究し、70年代から80年代には、白く塗ったカンヴァスに細い線を引いたシンプルな表現に行き着くこととなる。しかし最晩年の90年代に入ると、再び画面に色彩が復活し、幾何学的なかたちや線で画面を構成するようになった。その探求は平面作品だけでなく立体作品にもおよび、ステンレスや木を素材に、彼の絵画に通ずるシンプルなかたちを追求した彫刻の数々も制作した。

本展では、清川泰次が1980年代以降に制作した絵画と彫刻、あわせて23点を展示した。清川が晩年に平面と立体という二つの表現で創り出した色、線、かたちの美を紹介し、絵画と彫刻をともに展覧することで、両者に共通する線とかたちについて考察する機会となった。

出品目録

[大展示室]

絵画

No	作品名	制作年	材質、技法
1	Painting No.2182-3	1982-83	カンヴァス、アクリル
2	Painting No.884	1984	カンヴァス、アクリル
3	Painting No.118990	1990	カンヴァス、アクリル
4	Painting No.393	1993	カンヴァス、アクリル
5	Painting No.593	1993	カンヴァス、アクリル
6	Painting No.2593	1993	カンヴァス、油彩、アクリル
7	Painting No.2993	1993	カンヴァス、油彩、アクリル
8	Painting No.1393	1993	カンヴァス、アクリル
9	Painting No.1594	1994	カンヴァス、アクリル
10	Painting No.1295	1995	カンヴァス、アクリル
11	Painting No.3095	1995	カンヴァス、油彩、アクリル
12	Painting No.996	1996	カンヴァス、アクリル
13	Painting No.497	1997	カンヴァス、アクリル

彫刻

No	作品名	制作年	材質
14	Stainless Object NIJI No.3191	1991	ステンレス
15	Stainless Object V-3 No.4091	1991	ステンレス
16	Stainless Object 7-3 No.4191	1991	ステンレス

[小展示室]

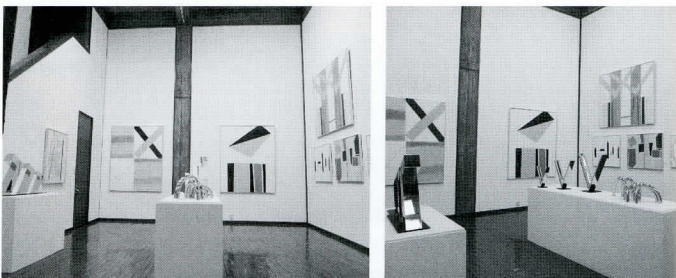
絵画

No	作品名	制作年	材質、技法
17	Painting No.2293	1993	カンヴァス、油彩、アクリル
18	Painting No.2693	1993	カンヴァス、アクリル

彫刻

No	作品名	制作年	材質、技法
19	Stainless Object No.4291	1989	ステンレス
20	2W93	1993	木、アクリル、ステンレス
21	3W93	1993	木、アクリル、ステンレス
22	7W93	1993	木、アクリル、ステンレス
23	9W93	1993	木、アクリル、ステンレス

展示風景



B3ポスター



A4チラシ

関連企画

12月16日(土) 11:00-
担当学芸員によるギャラリートーク
講師:樋口茉呂奈(当館学芸員)
参加者数:8人